

# 大阪・関西万博開催に向けた御意見

御所属 大阪大学 大学院医学系研究科 心臓血管外科 教授

御名前 澤 芳樹 様

## 1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

- 死生観を大切にしたいという思いがある。人の命を助けながら、一方では人が死んでいく。社会を考える上で、日本人はもっと死生観を考えるべきである。逆の方向に「いのち」を見つめ直すことが必要である。その上で改めて「健康」や「いのち」を大事にしていくことが重要になる。
- テーマに「いのち」と「未来」という文言が入っている。死があつての「いのち」である。「いのち」を大事にすることから入るようにしてほしい。
- 夢のような話が世の中には溢れているが、万博は課題解決の場にしたいと考えている。現在の主要な課題は高齢化社会である。万博においても高齢化社会への提言や体験を提供することに取り組んでほしい。
- 課題解決に取り組む万博であるとした時、本当に取り組まなければならない課題は認知症である。足が悪くなり、動けなくなるとどうなるのか。真剣に向き合わなければならない課題を万博のど真ん中に持ってきて、解決に向けてソリューションを提示することが万博後の「いのち輝く未来社会」につながるのではないか。
- 「認知症の方にとっても楽しい万博」として一つのモデルになり、それ以降の街づくりにフィードバックされるような取り組みができればよい。人に見せるための場ではなく、認知症の人が楽しめるような場を作る。そこで認知症という課題解決に取り組むことができれば、社会的なインパクトも大きい。課題解決を前面に押し出して考えていくことができればよい。
- 認知症の方を包摂できる社会をどのように作るのかが重要である。新しい社会を作るという視点だけではなく、今の社会をどれだけよくすることができるのか、どこまで底上げすることができるのかといった、現在の課題を解決する方向性の視点も大事だと考えている。
- 現状では認知症の方のデータを取ることは極めて困難である。認知症の方の行動を制限していたら、行動パターンのデータを取ることはできない。認知症の方の行動は何らかの記憶や考えに基づいていると考えられる。こうした実証に企業と取り組むことができればよい。AIによる手術等を見せるのは医療機器展示でしかない。スマート手術等の「夢の医療」はある意味では当たり前の技術である。圧倒的に足りていないのは認知症に対する視点である。
- 中之島の未来医療国際拠点整備や、うめきたの再開発から2025年の大阪・関西万博につながっていく。5年、10年、15年という長いスパンで考えて、「いのち輝く未来社会」のデザインを大阪から発信することができればよい。人に実装することができる場となれば企業も集まる。そうした場を作ることができればよいと考えている。

## 2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs 達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

- 認知症の方にも万博会場に遊びに来てほしい。家族が認知症の方をそれぞれ会場に連れてくるのではなく、認知症の方が集まる、認知症の方のためのパビリオンがあればよい。認知症の方を集めたパビリオンはどのようなものになるのか。自由に認知症の方が動き回るものになる。そのパビリオンで認知症の方の行動パターンを解析し、データを取る。その実証データを認知症の薬の開発や認知症の研究につなげるような取り組みができればよい。
- 認知症の方のためのパビリオンを作ってはどうか。館内を円形のフィールドにして、いくらでも徘徊できる設計にする。外には出ることができないので、ぐるぐると歩き回ったら疲れてしまうだろう。散髪屋や飲食店を配置し、認知症の方が館内でどのように過ごすのかを解析する。認知症の人がどのようなものに反応するのかのデータも取ることができる。スマートフォンを所有していれば位置データや行動パターンのデータも収集可能であり、それぞれの入館者を認識することも可能である。
- 1970年の万博で注目を集めた動く歩道や電気自動車が今では実現している。現在の状況から考えると、将来人類が火星に行くことも当たり前になることができ、驚きが少ない。しかし、認知症の治療法が確立されれば驚くだろう。

## 3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

(例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等)

- 実際に人を使って社会実装をするというのはハードルが非常に高く、医療関係の実証は病院や医者に頼らざるを得ない状況にある。個人情報保護法や情報銀行に取り組むために銀行法等の規制緩和も含め、万博のバックヤードとしてメディカル・スーパーシティに取り組むことができればよい。万博会場とつなぐのもよいだろう。バックヤードの取り組みと万博のテーマをつないでいかなければならない。人で実証するハードルは医療産業のボトルネックであるので、その解決策でもある。万博の会場は特区となっているので、様々な取り組みができればよい。
- 会場計画にはユニバーサル・スタジオ・ジャパン（以下：USJ）に参加してもらい、万博後はパビリオンをアトラクションに転用すればよいのではないかと考えていた。

## 4. そのほか、御自由に御意見をお願いします。

- 若い世代と一緒に、どのように万博を盛り上げていくのかを考える必要がある。関西の学生を中心とした若い世代が構成している団体「WAKAZO」等から意見を聞いてほしい。少なくとも、バーチャルを使えば世界とすぐにつながることができる時代である。万博では「WAKAZOパビリオン」や世界のバックパッカーを集めた場を作る等の取り組みも考えられる。若者が考える未来社会のデザインを「WAKAZO」に提言してもらおうということも考えられる。